



# 見沼小だより

平成29年度第2号

平成29年4月27日発行

TEL 048-663-7342

FAX 048-663-9887

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」



## 集団の力

校長 大澤 淳

あつと言う間に、草木が成長し、辺り一面が緑一色に染まっています。この時期の「みどりの日」という祝日は、まさにぴったりの呼び名だと思います。

さて、新年度が始まって1ヶ月が経ちました。1年生もずいぶん生活に慣れてきたところで、その様な中、学校ではこんなことがありました。1年生が入学して3日目の朝に、「1年生を迎える会」がありました。6年生に手を引かれて、体育館に入場するのですが、観ていたある先生が言いました。「6年生と手をつないで体育館に入った瞬間、1年生の態度がガラッと変わったのです。」と。1年生にはこれから始まることへの不安もあったかもしれませんが、その先生は、『しっかりしなきゃ』とか『自分たちは学校で一番小さいんだ』といった感覚を1年生が瞬時に感じ取ったみたいですよ。」と言われました。

その先生は入学してから2日間、1年生の様子をよく観てこられた先生です。それまでの1年生は、クラスの中で好きなことややりたいことを何でもやってみようとする元気いっぱいの子どもたちでした。それはきっと保育園や幼稚園の延長線上にあり、小学校でも同じように過ごした2日間だったのだと思います。ところが、6年生に手を引かれ体育館に入った瞬間、学校全体の中での自分たち1年生の位置や立場を漠然と感じ取ったのかもしれませんが。上級生たちの姿勢、体格、立ち方や顔つき、集中した動きなど、自分たちが今までとは違う集団の中におかれていることをしっかり自覚した瞬間なのだと思います。

各学年がそれぞれ進級すると、どの学年の子も、心新たに新学期の目標に向かって4月から生活をはじめます。なかでも、2年生と6年生の意識の変容は大きいのではないかと考えます。いちばんの下級生から進級して「お兄さん」「お姉さん」になった2年生の自覚、学校の中で最上級生として学校を支える立場になった6年生の自覚は、それぞれの子どもの心の中で大きな変化をもたらしているようです。もちろん他の学年の子も変化します。中学年の仲間入りをした3年生や、クラブが始まった4年生、委員会活動など高学年として役割が大きくなった5年生も、それぞれ子どもたちが新しい学年への自覚をもち変化していきます。4月の進級が学年や学校という集団の力のなかで、自分自身を変容させて大きくステップアップしていく、まさに大きな節目となっていることがよくわかります。

学校には、教科書や普段の授業で学ぶこと以外に、遠足や社会科見学、運動会や音楽会があります。また、高学年には宿泊行事もあります。学校、学年、学級という集団の中で、身に付けていく社会規範や生活習慣、また身近な仲間を通して学ぶ、集団生活の楽しさや他を思いやる気持ちなど、集団でなければ身に付かない力がたくさんあります。学校という集団の中で、1年1年を節目に、それぞれの学年の特性に合った力を確実の伸ばし、成長して行ってほしいと、新学期、1ヶ月が過ぎ、あらためてそう願います。